「武将茶人　上田　宗箇」

みなさんは、上田宗箇流という茶道の流派を知っていますか。茶道というと、千利休が広めたことで有名ですが、広島にはそれとは別のすばらしい武士の茶道が受け継がれているのです。

今から四〇〇年ほど前、上田宗箇という武士がいました。もとは、織田信長や豊臣秀吉に仕えたこともあり、後に芸州藩（今の広島）に迎えられ、大竹や中日市をおさめる領主となったのでした。宗箇は、体は小さかったのですが、いくさの時には勇ましい活躍をして、たくさんの褒美をもらうような武将でした。

当時、武士は、いくさのあいまに茶の湯を楽しみ、つかの間の安らぎを楽しんでいました。宗箇も茶の湯が大好きで、殿様を自分の屋敷にお迎えするときも、必ず(1)茶の湯を点てておもてなしするほどの腕前でもありました。

宗箇は古田織部という武士に茶道を習いました。織部は、信長や秀吉に仕えた有力な武士であり、千利休の弟子でもありました。織部は宗箇にお茶を伝えるとともに、宗箇の生き方にも大きな影響を与えました。

ある時、織部は自分の弟子である宗箇にこう話しました。

「千利休は静かなものに美しさを感じ茶道を作りました。私は動きのある新しいものに美しさを感じ茶道を作り上げてきました。さて、あなたの茶道にはどんな自分らしさがありますか？」

宗箇は「はっ」としました。これまで自分は利休や織部から茶道を習ってきたが、自分らしさについて考えたことはなかったからです。

「私の茶道には自分らしさがない・・・」

宗箇は大きなショックを受けました。

宗箇は自分流の茶道をもとめて、いろいろと試してみました。(2)茶杓を作ってみたり、花入れを作ってみたりしましたが、満足のいくものができませんでした。茶碗も職人に任せず自分で作ってみました。しかしどれも利休や織部のいいところを真似ているようで、とても自分らしさを感じることはできませんでした。

「自分には新しいものは生み出せないのではないだろうか・・・」

そう悩む日々が続きました。

ある日、宗箇はいくさに出陣しました。(3)大阪夏の陣の戦いです。

宗箇はいくさの合間に心を落ち着けようと、一本の美しい竹を見つけ、茶杓を削り始めました。いつ敵が攻めてきて命を落とすかもわからない状況の中で、覚悟を決めながら、それでも使いやすいように心をこめて一心不乱に削り続けました。

無心に削った茶杓は、直線的で、実に味わい深いものでした。そして武士の力強さ、大胆で豪快な堂々たる姿があらわされていました。

宗箇はできあがった茶杓を夕日にかかげて見上げました。その茶杓は夕日を照り返し、まぶしく輝いていました。

「そうだ！これだ！これが私らしさなのだ！」

と、大きな声でさけびました。

そこには、利休とも織部とも違った新しい上田宗箇らしさがありました。

「私らしさとは、武士の強さをもったもの。いや、しかしそれだけではない。」

宗箇は、さらに自分らしい茶道を作ることに夢中になりました。

宗箇が作る茶碗や花入れには、武士の力強さが表現されており、無駄のない、りんとした美しさがありました。しかし、その強さの中にも使う人にやさしく思いやりのある繊細さや、自分なりの思いをこめたのでした。

宗箇は、武士としての強さと優しさを兼ね備えた生き方をもとに、新しい上田宗箇の茶道をついに、完成させていったのでした。

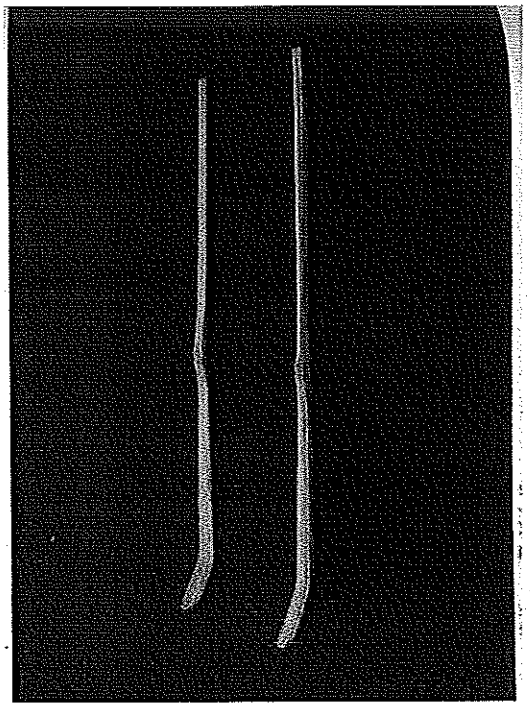
宗箇が戦いのさなかに作った茶杓は「敵がくれ」という名前がつけられ今でも大切にされています。

【注】

（1）客を招き、抹茶をたてて楽しむこと。また、その作法や会合のこと。

（2）茶道の点前で抹茶をすくう細長いさじのこと。素材は主として竹であるが、象牙、金属、陶器などもある。

（3）元和元年（一六一五年）夏、徳川方が冬の陣の和議の条件に反して大坂城内堀を埋めたため豊臣方が兵を挙げ、徳川家康らに攻め落とされた戦い。



【参考文献】

上田宗嗣「茶道　上田宗箇流」（一九三四年）ひろしま文庫

渡　好美「上田宗箇とその時代」（一九九四年）淡水社

津本　陽「風流武辺」（二〇〇二年）朝日文庫

矢部良明「武将茶人　上田宗箇」（二〇〇六年）角川書店

久野　治「古田織部とその周辺」（二〇〇九年）鳥影社
山田芳裕「くうげもの」（二〇〇五年）講談社
季刊誌「和風」

武将茶人（ぶしょうちゃじん）　～上田（うえだ）　宗箇（そうこ）～

六年一組　（　　）

一、「そうだ。これだ。これが私らしさなのだ。」とさけんだ宗箇は
どんな気持ちだったでしょう。

上田（うえだ）　宗箇（そうこ）の絵

二、今日の学習の振り返りをしましょう。

① 今日の道徳の時間は、ためになったと思いますか。
　1とても　2まあまあ　3あまり　4ぜんぜん

② 友だちの意見を聞きながら、自分のことを振り返りましたか。
　1とても　2まあまあ　3あまり　4ぜんぜん

③ 学級のみんなで意見を出し合い、深めましたか。
　1とても　2まあまあ　3あまり　4ぜんぜん

先人の伝記　「武将茶人　～上田宗箇（うえだそうこ）～」

〔小学校高学年　主題：個性の伸長　内容項目：1の（6）〕

授業展開例　－学習指導案（略案）－

（ア）主題名　個性の伸長　1－（6）

（イ）ねらい　「そうだ。これだ。これが私らしさだ。」と叫んだ宗箇の気持ちを通して，自分の特徴を知ることの大切さに気付かせ，自分のよさを伸ばそうとする心情を育てる。

（ウ）資料名　「武将茶人　上田宗箇」

（エ）学習指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点 （評価の観点☆）
導入	1　自分の長所を交流し合う	○　自分にはどんな長所がありますか。 ・走るのが速い。 ・サッカーが上手。 ・習字が得意。	○　ねらいとする道徳的価値への方向性をもたせる。 ○　自分の長所を学級活動などで考えさせておくなど事前の学習と関連させる。 ○　自分の日常を振り返らせる。
展開	2　資料前半を読んで考える。	○　織部の言葉を聞いて宗箇は「はっ」としたのはどうしてでしょう。 ・私には自分らしさがない。 ・自分らしさなんて気付いていない。 ・自分らしさって何だろう。 ○　自分流の茶道を求めていろいろと試してもなかなか納得できない宗箇はどんな気持ちになったでしょう。 ・とてもショックな気持ち。 ・自分には無理なのではないか。 ・いくらやってもだめだ。諦めよう。 ・自分には新しいものなんて生み出せない。 ・なんとかしなければ。	○　宗箇と似た体験などを想起させ自分と重ね合わせて考えさせる。
	3　資料後半を読んで考える。	◎　「そうだ。これだ。これが私らしさなのだ」と叫んだ宗箇はどんな気持ちだったでしょう。 ・自分に満足のいくものが出来上がったぞ。 ・自分は武士だから武士らしさを発揮すればいいんだ。 ・力強い作品になったぞ。 ・自分らしい作品になったぞ。 ・自分らしさをついに見つけたぞ。 ○　自分らしさを見つけたのに「それだけではない。」と言った宗箇にはどんな思いがあったのでしょうか。	○　自分なりのものを追究することや真摯な態度に共感させ，ねらいに迫る。 ○　書く活動を取り入れ，自分にも独自のものを一生けん命に作った体験がないかを思い出させる。 ○　ペアトークで考えを交流させたあとクラストークに発展させる。 ☆　自分らしさを見つけた宗箇の心情を，自分自身の体験に照らして考え，自分なりの言葉で表現することができたか。 ○　自分らしさを見つけるだけでなくもっと伸ばしていきたいとする気持ちの高まりに気

展開	4　自分の生活を振り返る。	・他にもっとよいものがあるのではないかと思った。 ・もっと自分独自のものを作り続けたい。 ・さらに自分らしさを伸ばしたい。 ・自分らしさをもっと磨きたい。 ・自分にしかできないものを作り出したい。 ○　宗箇のように自分らしいところを伸ばしていきたいと思うことがありますか。 ・大きな声が出せるのであいさつの仙人にまでになれるようにしたい。 ・習字が得意なのでそれを生かしてきれいなノート作りをしていきたい。	付かせる。 ○　導入で行った長所についての交流を思い出させ，気持ちや思いをしっかり引き出す。
終末	5　まとめをする。	○　上田宗箇流第 16 代家元のビデオレターを見る。	○　宗箇の生き方（個性の伸長）について 3 分くらいにまとめたビデオを視聴させる。

【参考資料】　小・中学校学習指導要領解説道徳編「第３章　道徳の内容」

１　主として自分自身に関すること

【第３学年及び第４学年】
(5)　自分の特徴に気付き，よい所を伸ばす。

個性の伸長を図るために積極的に自分のよさを伸ばす児童を育てようとする内容項目である。主に，第５・６学年の１の(6)と深くかかわっている。

個性の伸長とは，自分のよさを生かすことであり，自分らしさを発揮しながら調和のとれた自己を形成していくことである。児童が自分らしい生活や生き方について考えを深めていく視点からも，極めて重視されなければならない内容である。また，ここでの特徴とは，他と比べて特に自分の目立つ点であり，長所だけではなく短所も含むものである。したがって，自分の特徴を知るとは，その両面を見いだすことであって，短所や不得意なものを努力によって望ましい方向へ改め，自分のよさを一層伸ばしていくことが大切にされなくてはならない。なお，このような態度は，第１・２学年の段階においても，例えば，勉強や仕事をしっかりと行うことや，よいことを進んで行うことなどに関する指導を通じてはぐくまれている。

この段階において自分の特徴に気付くとは，自分のよい所や悪い所などに気付くことであると考えられる。その上で，よい所をさらに伸ばしていき，自分の個性を伸ばすようにするのである。そのためには，児童が多様な個性や生き方に触れる中で自分の特徴に気付くようにしたり，友達との交流の中で認め合う場をつくったりして，よい所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが求められる。

【第５学年及び第６学年】
(6)　自分の特徴を知って，悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。

この段階においては，自己の生き方を見つめ，自分の特徴を多面的にとらえることが必要である。そうすることにより，よい所と悪い所の両面が見えてくる。その際，まず，自分が気付いたよい所を積極的に伸ばそうとする態度を育てる必要がある。そして同時に自分の悪い所などもしっかりと見きわめ，それを課題として改めることが自分を伸ばすために大切であることを理解して，そのように心掛けられるようにすることも重要である。

1　主として自分自身に関すること

【中学校】
(5)　自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

「汝（なんじ）自身を知れ」「吾（われ）日に三たび省みる」という言葉があるように，これまでや現在の自分，そして将来こう在りたいという自分を静かに見つめ直すことは，自己の向上を願って生きていく上で重要なことである。また，一人一人の人間は姿や形が違うように，人それぞれには必ずその人固有のよさがある。その個性を生かし伸ばしていくことは，人間の生涯をかけての課題でもある。充実した生き方は，そうした自分の人生への前向きな取組を繰り返す中で，おのずと体得される。

中学生の時期は，自己理解が深まり，自分なりの在り方や生き方についての関心が高まってくる。「人生いかに生きるべきか」といった命題にも真剣に取り組むようになる。このことは「よりよく生きたい」という願いの裏返しであり，価値ある人生の実現に向けて限りない模索をしていることを表している。一方で，自分の姿を自らの基準に照らして考えたり，他人との比較においてとらえたりするために，その至らなさに一人思い悩むことも少なくない。そして，他人と同じように扱われることを嫌ったり，反対に他人と異なることへの不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になったりすることもある。

指導に当たっては，自己の欠点や短所の追求のみに偏ることなく，かけがえのない自己をまずは肯定的にとらえるとともに（自己受容），自己の優れている面などの発見に努め（自己理解），自己との対話を深めつつ，更に伸ばしていくようにすることが大切である。また，自分のよさは自分では分からないことが多いので，生徒相互の信頼関係を基盤として互いに指摘し合い，高め合う人間関係をつくっていくように指導することが重要となってくる。その意味でも，優れた古典や先人の生き方との感動的な出会いを広げる中で，充実した人間としての生き方についての自覚を深め，自分自身のよさや個性を見いだしていくことができるようにすることが大切である。